開創

使用器具 

一部のエピソードを除き、ほぼすべての手術で最初に行なう基本術式で、部位によって開胸または開腹とも呼ぶ。開創部には切開を行なうガイドラインが表示され、まずはそれにそってヒールゼリーによる消毒を施す。そのとき、塗り忘れがあると*Good*、まったく塗らなかった場合は*Bad*評価になるので注意したい。メスで患部を切り開く際は、カーソルがマーカーと呼ばれるガイドライン上のすべての点を通れば成功となる。なお、病状の急変および救急で運び込まれる患者は、バイタルが低下した状態で手術が開始されることが多く、そのまま開創を行なうと患者の生命を危険にさらしかねない。その場合は消毒のあと、バイタルを最大値まで回復してから、切開を開始するように心がけたい。

●開創の手順

1. ヒールゼリー …患部を消毒
2. メス……………術野を切り開く

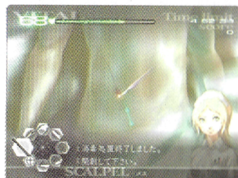
評価・判定ポイント

- ガイドラインを完全に消毒
- 切開時にミスなし



❶ヒールゼリー ANTIBIOTIC GEL

消毒を省いても術式は続行可能。ただし、いくら正確な切開を行なっても評価は*Bad*にしかならない。



❷メス SCALPEL

切開は、ガイドラインの端にある点ならどちら側から開始してもOK。やりやすいところから始めよう。

閉創

使用器具 

臓器内の病巣の摘出や患部の治療などを終えたあと、術野を閉じる際に行なう処置。針と糸によって開創部を縫合するこの閉創も、すべての手術で必ず行なう基本的な術式となっている。処置の手順は、19ページで解説した出血線・大のときとほぼ同じで、縫合線の長さ、折り返し幅、中心線、角度、折り返し回数の判定なども同様に行なわれる。ただし、縫合が不完全な場合や途中で縫合を中断した際には*Miss*と判定され、評価が下がってしまうという点が大きく異なっているので覚えておこう。この*Miss*回数が2回以上になってしまうと、そのあとにどんなに美しく縫合することができたとしても、最終的な評価は*Bad*に確定される。閉創で*Cool*評価を獲得するためには、手順のやり直しを行なわない正確な器具操作が必要となってくる。

●閉創の手順

1. 針と糸 ………術野を閉じる

評価・判定ポイント

- 縫合線の長さ、幅、中心位置、傷に対する角度が正確
- 折り返し回数が規定数以上ある
- 縫合時にミスなし



❶針と糸 その1 STITCHES

手を止めない、糸は長めに、折り返し回数を多く、というポイントを意識すると成功しやすい。



❶針と糸 その2 STITCHES

縫合線の幅はそれほど取らなくてもいい。中心線と左右バランス、角度に注意すれば*Cool*は取れる。

テーピング

使用器具 

縫合した閉創部を保護する処置。手術の仕上げとなる基本の術式であり、すべての手術の最後に必ず行なう手順である。まずは縫合痕への消毒だが、これは開創時と同じく塗り忘れた部分があると*Good*、いっさい塗らなかった場合は*Bad*と評価される。次に行なうテーピングは、「貼り付けた保護テープの長さが適当か」、「中心の位置と貼った角度が縫合痕と一致しているか」が評価ポイント。それらのすべてがパーフェクトなら*Cool*、許容範囲ならば*Good*、少しでもズレているとBad評価となる。なお、テーピングの始点や終点が縫合痕の途中である場合や、それらが縫合痕から大きく外れているとMissと判定されてしまい、評価が下がるので注意すること。

●テーピングの手順

1. ヒールゼリー …閉創部を消毒
2. 保護テープ …閉創部に貼る

評価・判定ポイント

- 閉創部を完全に消毒
- 保護テープの長さ、中心位置、傷に対する角度が正確
- 保護テープの貼りミスなし



❶ヒールゼリー ANTIBIOTIC GEL

手術時間が残りわずかであれば、クリア優先でヒールゼリーを省くといった判断も間違いではない。



❷保護テープ BANDAGES

縫合痕の少し上の位置からテーピングを開始するのがコツ。縫合痕を完全に覆うように貼り付けよう。

腫瘍

使用器具 

臓器内の腫瘍の位置をスキャナのエコー機能で特定し、メスで切開後、組織液をドレーンで吸引。容積を減少させてから腫瘍を切除し、摘出。最後に切除痕を人工膜でふさげば術式完了となる。これはボーウェル法と呼ばれる腫瘍摘出の基本術式で、いくつかのエピソードでの手術で使うことになる。手術器具変更の手際のよさ、処置の正確さが要求され、この術式をモノにできれば名医に一歩近づいたといえるだろう。

●腫瘍の手順

1. スキャナ ……………………エコー機能で場所を特定
2. メス ……………………………患部を切り開く
3. ドレーン ……………………組織液を吸引
4. メス ……………………………腫瘍の周囲を切開
5. ピンセット ………………切開した腫瘍を摘出
6. ピンセット・人工膜 …切開痕に人工膜を移植
7. ヒールゼリー ……………人工膜を定着

評価・判定ポイント

- スキャナで影を表示せずに正確な位置で患部を切開
- 組織液を復活させずに腫瘍を切り取る
- 腫瘍切開時にミスなし
- 腫瘍摘出時にやり直しなし



❶スキャナ(エコー) ULTRASOUND

腫瘍の位置は固定。何度もプレイして覚えれば、スキャンを省いて腫瘍を切開することも可能だ。



❹メス SCALPEL

組織液は一定時間で復活するので、そのまえに腫瘍を切り抜こう。やり直しは患者に負担がかかる。